

2025年度 新人看護職員教育プログラム

- 到達目標：
- ・看護師としての基本姿勢や態度が身につく
 - ・日常生活支援のための基本的技術、態度を身につけ、安全かつ確実にできる。看護実践を通して看護の知識を深められる
 - ・チームメンバーとしての役割を理解し、指導を受けながら責任を果たすことができる
 - ・主体的な学習態度、方法が身につく。看護実践を通して看護観が言える

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標	□職場環境に慣れる □社会人としての自覚を持ち、適切な接遇、身だしなみ、マナーが身につく □自分の考えを他者に伝えることができる □他者の話を関心を持って聴くことができる □プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱うことができる □消火設備の定位置と避難 ルート、地震等災害時の初期行動がわかる	□指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる □指導を受けながら、実践した看護の記録（SOAP・経過表）ができる □自部署の特徴と日勤の業務の流れがわかる □患者や同僚と適切なコミュニケーションが取れる	□指導を受けながら、業務上の報告、連絡、相談ができる □時間内に業務を終了する意識を持って行動できる	□実践した看護を記録できる □決められた時間内に業務が終わるよう調整できる □転入・転出患者の対応ができる □休日勤務の流れを知ることができる	□業務上の報告、連絡、相談ができる □指導を受けながら、複数の患者の優先度を考えて行動できる □指導を受けながら、予約入院の対応がで切る □指導を受けながら、患者のニーズを身体的、心理的、社会的、スピリチュアルの側面から把握できる		□複数の患者の優先度を考えて行動できる □患者のニーズを身体的、心理的、社会的、スピリチュアルの側面から把握できる □患者の状況から緊急度をとらえることができる □受け持ち看護師の役割がわかる	□指導を受けながら、患者や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる □指導を受けながらチームの一員としての役割が理解できる □自部署における専門的看護の特徴を理解できる □夜勤帯の病棟及び患者の状況を知ることができる □夜勤帯の看護業務や看護師の役割を知ることができる □夜勤に従事する際の自己管理方法を見出せる	□指導を受けながら、受け持ち患者の看護過程が展開できる（准看護師を除く） □指導を受けながらケアに必要な判断した情報を関係者から収集することができる □自己の看護観や経験から得た知識などを他者に伝えることができる			
業務オリエンテーションの目安	□（4/17～24）ナースエイドとカルガモ □（4/30～）カルガモ（シャドーイング）中心 □ナースコール対応 □電話対応 □報告・連絡・相談の徹底	□2名の患者を受け持つ □マニュアルに沿った日常生活援助 □部署内でよく行われる検査の見学 □インシデントレポートの記入 □救急カート点検	□4名の患者を受け持つ □退院患者の対応 □外出・外泊時の対応	□4～6名の患者を受け持つ □介護度の高いを受け持つ □第2.4土曜日の勤務 □転入、転出	□6～8名の患者を受け持つ □予約入院の見学 □土日祝日の勤務	□予約入院の対応	□臨時入院の見学	□臨時業務の対応 □急変時の対応 □夜勤前オリエンテーション	□夜勤業務2回（シャドーイング）	□夜勤業務3～4回	□夜勤業務3～4回（夜勤業務の逆シャドーイング）	□夜勤1人立ち
集合研修	□（4/1）病院オリエンテーション □（4/2）看護部オリエンテーション □（4/2～16、25、28）若葉教室（看護技術）	□（5/13）カルガモ振り返り今月の目標（主任・教育担当者）	□（6/18）メンタルヘルス（CNS） □輸液ポンプ・シリンジポンプの操作方法（CE）	□（7/16）看護過程計画立案（記録委員会） □心電図モニターの操作方法（CE）	□（8/20）倫理研修	□（9/17）多重課題（教育担当者）	□（10/15）血液製剤の取り扱い	□（11/19）急変対応、報告連絡、KYT（安全） □人工呼吸器の準備（CE）	□（12/17）看護過程事例検討（記録委員会）		□（2/19）看護実践報告会（教育担当者）	
看護技術	□環境整備 □ベッドメイキング □排泄介助 □歩行介助 □移乗 □移送 □体位変換 □清拭 □入浴介助 □陰部洗浄 □おむつ交換 □寝衣交換 □バイタルサイン測定 □パルスオキシメーター □スタンダードプリコーション	□食事介助 □浣腸 □摘便 □口腔ケア □吸引（口腔内、鼻腔内） □ネブライザー □経口薬の与薬 □直腸内与薬 □血糖測定 □静脈血採血 □転倒・転落防止対策 □患者誤認 □誤薬防止	□経管栄養法 □点滴、注射の管理（抗菌薬） □無菌操作 □酸素吸入	□導尿 □膀胱内留置カテーテル □気管内吸引		□死後のケア □血液製剤 □輸血						
指導者の留意事項	「わからない」し「できない」時期 ・基本的信頼関係を持つ（挨拶、居場所の確保） ・具体的な説明、指示 ・過度に緊張させない ・振り返りも含めて勤務時間内に終わるよう配慮	「少しわかってくる」時期 ・初めてのことは具体的に説明し、指示をする ・看護（技術）の安全面にポイントを絞って指導する ・新人が理解できる言葉で指導し、理解度を確認する ・指導者と一緒に実践し、できていることを承認する ・経験したことには助言をする ・振り返りも含めて勤務時間内に終わるよう配慮し、始業前業務は行わない	主体的に取り組み始める（「わかる」「意識したらできる」）時期					「意識しなくてもできる」ことが増える時期		署内のことは「意識しなくてもできる」時期		
						・指示、助言、見守り、任せる、を使い分ける					・できていることを承認する	
						・初めてのことは具体的に説明し、指示をする					・できない部分や失敗は、どのようにしたらできるのかを一緒に考える	
						・経験したことには助言をし、一緒に実施、見守りなどの支援を行う					・困っていること、迷っていることがないかを確認する	
						・主体的な行動につながるように選択肢を与え、自己決定ができるように支援する						
						・過度な期待はせず、できていることを承認する。できているだろうという思い込みで任せきりにせず、確認をする						
部署全体の役割	笑顔で接しつつ居場所を作る。新人の話は先入観や思い込みを持たずに聞く。報告を受けたときには「ありがとう」「お疲れ様」という言葉で労いや承認を表現する。自分の看護観やアセスメント等を積極的に言葉で伝える。			できていところに着目し、承認する。できていない部分については助言をする、または自分のスキルを積極的に見せる。自分のアセスメントを言語化して伝える。						看護チームメンバーとしての役割モデルとなり、新人やプリセプターが気づいていない部分の情報提供や看護展開の支援を行う。		
面談	□（4/17～24）看護部長 □（4/下旬）看護師長	□（5/下旬）教育担当者 □（5/下旬）師長	□（6/下旬）教育担当者 □（6/下旬）師長	□（7/下旬）教育担当者	□（8/下旬）教育担当者	□（9/中旬）主任 □（9/中旬）中間評価	□（11/下旬）教育担当者		□（12/下旬）教育担当者 □（12/下旬）師長		□（2/中旬）教育担当者 □（2/中旬）主任 □（2/下旬）師長 年度末面談	
		・カルガモ実施後の振り返り ・5月の目標とオリエンテーションについて共有する ・オリエンテーションの進捗確認 ・看護技術チェックリストの評価 ・チャレンジシートの作成	・6月の目標、オリエンテーションの進行状況を確認する ・今月の目標と今後のオリエンテーションについて共有する	・7月の目標、オリエンテーションの進行状況を確認する ・8.9月の目標と今後のオリエンテーションについて共有する ・看護技術チェックリストの評価	・8.9月の目標、オリエンテーションの進行状況を確認する ・10.11月の目標と今後のオリエンテーションについて共有する ・チャレンジシートの中間評価	・10.11月の目標、オリエンテーションの進行状況を確認する ・夜勤について ・12.1月の目標と今後のオリエンテーションについて共有する ・看護技術チェックリストの評価		・12月の目標、オリエンテーションの進行状況を確認する ・今月の目標とオリエンテーションについて共有する ・実践報告会へ向けての振り返り	・チャレンジシートの評価、次年度へ向けての振り返り ・目標の評価、オリエンテーション進行状況の評価 ・看護技術チェックリストの評価			